



品質
Quality



社会
Society



不二家

CSR報告書 2014



経営マネジメント
Management



環境
Environment



編集方針

不二家は、2003年から毎年「環境報告書」を作成し、環境問題への取り組みや考え方をご報告してきました。そして、より多くの方に企業の社会的な活動を報告することが企業が果たすべきCSR（企業の社会的責任）であるという考えのもと、2008年から「CSR報告書」としてまとめています。

本報告書では不二家のCSR活動を「品質」「経営マネジメント」「社会」「環境」の4項目にまとめ、それぞれの具体的な取り組みについてご報告をしています。

報告対象範囲

本報告書では原則として不二家単体を報告対象範囲としています。

尚、環境報告部分の環境データにつきましては、ISO14001の規格に基づいて活動している製造5工場（秦野工場、平塚工場、富士裾野工場、野木工場、埼玉工場）のデータを収集・記載しています。

製造5工場のISO14001認証取得年月と環境負荷データ集計対象工場

	ISO14001 認証取得年月	環境負荷データ集計対象工場											
		2003年 (4月~3月)	2004年 (4月~3月)	2005年 (4月~3月)	2006年 (4月~3月)	2007年 (4月~3月)	2008年 (4月~3月)	2009年 (4月~3月)	2010年 (4月~3月)	2011年 (1月~12月)	2012年 (1月~12月)	2013年 (1月~12月)	
菓子	秦野工場	2002年4月	2005年4月 統合認証	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	平塚工場	2002年4月		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	富士裾野工場	2001年4月		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
洋菓子	野木工場	2003年 4月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	埼玉工場	2004年10月	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

報告対象期間

2013年1月～2013年12月 ※一部、当該期間外における取り組みが含まれています。

発行年月

2014年6月

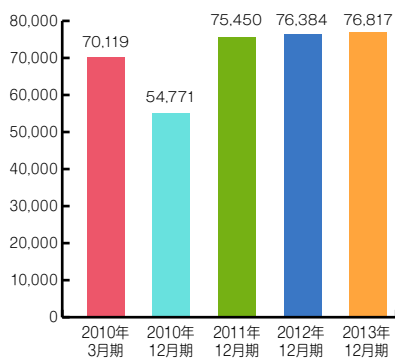
Contents

編集方針 P 2	企業理念 P 5
会社概要 P 3	不二家とステークホルダー／CSR推進方針 P 6
トップメッセージ P 4		
品質			
安全のために P 7		
経営マネジメント			
コーポレートガバナンスと内部統制 P12	リスクマネジメント P14
コンプライアンス・セキュリティ P13		
社会			
お客様とともに P15	従業員とともに P19
株主・投資家の皆様とともに P18	不二家ファミリー文化研究所 P23
環境			
環境方針／環境マネジメント P25	環境保全活動 P28
事業活動のマテリアルバランス P27		
不二家のあゆみ P32		

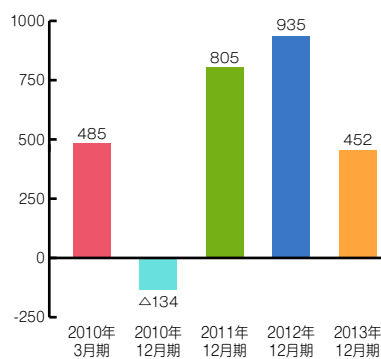
会社概要(2013年12月31日現在)

社名(商号)	株式会社不二家
本店所在地	〒112-0012 東京都文京区大塚二丁目15番6号
代表者	取締役会長 山田憲典 取締役社長 櫻井康文
創業	1910年(明治43年)11月
設立年月日	1938年(昭和13年)6月
資本金	18,280百万円
従業員数	正社員1,042名
主要関係会社	山崎製パン株式会社、株式会社不二家フードサービス、株式会社ダロワイヨジャパン株式会社不二家東北、B-Rサーティワンアイスクリーム株式会社、日本食材株式会社不二家サンヨー株式会社、不二家乳業株式会社、不二家(杭州)食品有限公司株式会社不二家システムセンター、不二家テクノ株式会社
営業部・支店	東京、大阪、名古屋、福岡、仙台、札幌など全国の主要地
店舗	銀座、横浜、名古屋、大阪、福岡、札幌など全国の主要地
工場	秦野(神奈川県)、平塚(神奈川県)、富士裾野(静岡県)、野木(栃木県)、埼玉(埼玉県)、泉佐野(大阪府)、吉野ヶ里(佐賀県)、札幌(北海道)

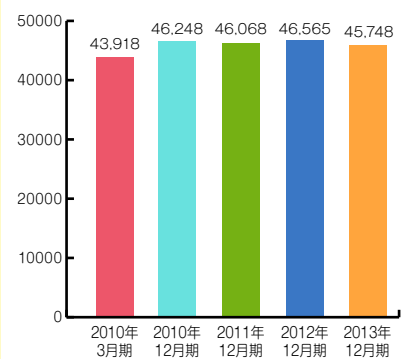
単体売上高(単位:百万円)



単体経常利益(単位:百万円)



単体総資産(単位:百万円)



※決算期変更のため、2010年12月期は9ヶ月決算。

事業内容

洋菓子事業

ケーキ、ベーカリー、デザート、アイスクリームなど洋菓子類の製造販売、喫茶店及び飲食店の経営



菓子事業

チョコレート、キャンディ、焼菓子など菓子の製造販売



食品事業

飲料及び乳製品など食品の製造販売



※各商品などの詳細は、不二家ウェブサイトにてご覧いただけます。
不二家ウェブサイトURL <http://www.fujiya-peko.co.jp/>

その他事業

業務内容：通販・キャラクター事業および不二家システムセンターの事務受託業務及び不動産の賃貸、管理など

「家族の笑顔」のそばにあり続けるために

不二家は、1910年の創業より常に「家族」という視点を大切に考えて企業活動を行ってまいりました。

お菓子が子どもたちやおかあさんにとって、家族をつなぎ、家族の幸せや笑顔を運んでくれる大切なコミュニケーションツールであると考え、お菓子を通じて家族の団欒、笑顔の場を作るお手伝いをしてきました。

誕生日や七五三、クリスマスなど、家族で過ごす楽しい時間、毎日のおやつ。その笑顔の隣に、不二家のお菓子があること。それが私たちの喜びです。

不二家は、「常により良い商品と最善のサービス(ベストクオリティ・ベストサービス)を通じて、お客様、ご家族に、おいしさ、楽しさ、満足を提供する」という経営理念のもと、“すべてを「おかあさんの気持ち」で『ベストクオリティ・ベストサービス』を提供します”という使命(ミッション)を掲げています。

この使命を果たすことが、不二家のCSR(企業の社会的責任)の取り組みとなると考え、事業活動を通じて社会に貢献し、社会と当社が持続的に発展していくことを目指しています。企業の責務として、ガバナンス体制の構築や法令遵守はもちろんのこと、社会の要請である「食の安全」への取り組みも積極的に行っています。

また、従業員の幸せにも目を向けています。労働安全衛生に配慮すること。やりがいのある仕事を通じて従業員が成長していくこと。仕事と家庭や個人生活とのバランスがとれていること。介護や育児に携わる従業員が働きやすい職場を作っていくことなど。従業員一人ひとりの幸せが高まることで、社会への貢献や、不二家の企業価値が向上することにつながると考えています。

商品・サービスの提供はもちろんのこと、家族が絆を深めあいながら、新しい時代の豊かな暮らしや文化を育むお手伝いや、次世代に伝えていきたい豊かな自然環境を守り育てる活動などを通じて、「ペコちゃん」を象徴に、すべての「家族」に貢献する企業でありたいと願い、その実現に努めてまいります。

本報告書を通じて、不二家のCSR活動への取り組み姿勢、活動内容をご理解いただきますとともに、今後の活動に向けて、ご意見、ご感想をいただければ幸いです。



代表取締役社長

櫻井 康文

企業理念

社是

愛と誠心と感謝をこめて
お客様に愛される 不二家になります

経営理念

常により良い商品と最善のサービス
(ベストクオリティ・ベストサービス)を通じて、
お客様ご家族に、おいしさ、楽しさ、満足を提供する



“不二家のミッション”

すべてを、「おかあさんの気持ち」で
『ベストクオリティ・ベストサービス』を提供します

行動規範

- 『お客様に安全な商品を提供し、安心と満足をお届けします。』
- 『法令・ルールを守り、社会の良識に沿って行動します。』
- 『社会との絆を大切に、
地域社会の発展と環境の保全に努めます。』
- 『積極的なコミュニケーションを図り、
風通しの良い企業文化を作ります。』
- 『自ら考え、迅速に行動し、良い成果を出します。』

スマイル運動

5つのアクション

- | | |
|--------------|----|
| S : Safety | 安全 |
| M : Mission | 使命 |
| I : Inspire | 感動 |
| L : Learning | 研鑽 |
| E : Effort | 努力 |

不二家の「スマイル運動」

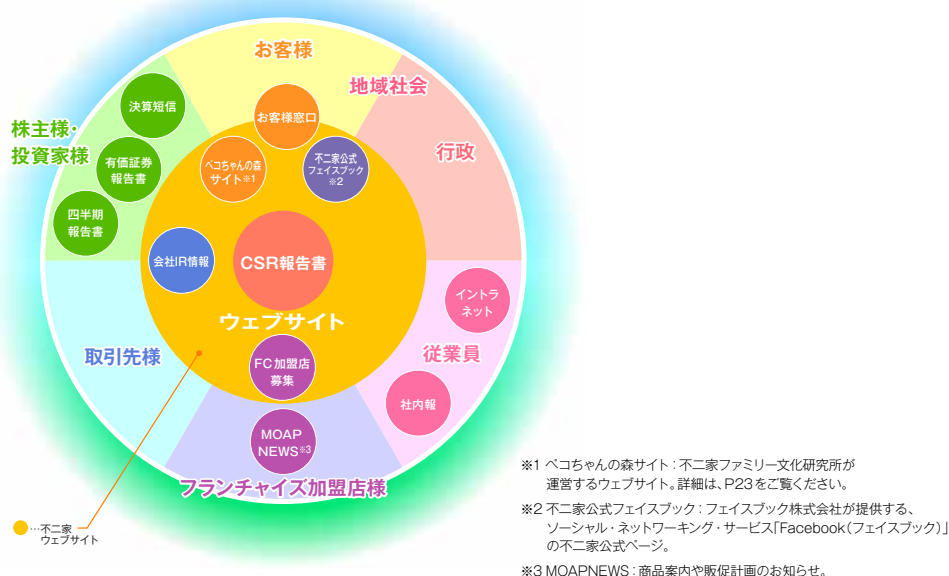
不二家は、経営トップが先頭に立ち「スマイル運動」を推進しています。

「スマイル運動」とは、社員一人ひとりが、お客様の「笑顔のためにできること」は何かを自ら考え、自ら行動するという運動です。社員は、社是、経営理念、会社の歴史と創業精神を学び、常にお客様の安全(食品安全・労働安全)を意識し、行動を起こします。

ここでいうお客様とは、消費者の方ばかりでなく、社内の各職場にも存在します。製造現場では、自分の工程から見て次の工程を担当する人が、自分のお客様である意識し、次の工程の人に喜んでもらえる仕事をします。これにより職場内でのコミュニケーションがスムーズになり、より良い製品を作ることができ、職場には笑顔が生まれるようになります。従来から取り組んでいる「AIBフードセーフティ」、「ISO9001品質マネジメントシステム」、「本物の5S活動」など不二家独自の生産方式や労働災害撲滅のための活動も、「スマイル運動」の一環と位置づけています。また、洋菓子店やレストランでは、サービスマニュアルを守ることはもちろんのこと、お客様が笑顔でお買い物やお食事を楽しんでいただけるよう最善のサービスを日々心がけています。

不二家とステークホルダー

不二家は企業活動を通じて関わる、社外・社内のさまざまなステークホルダーの皆様の期待に応え、信頼関係を構築するために、ウェブサイトを中心とした各種ツールを活用し情報発信しています。



お客様・地域社会

常により良い商品と最善のサービス、お客様との双方向のコミュニケーション、また、さまざまなご要望・ご指摘への速やかな対応を通じて、お客様との信頼関係の構築に努めます。

行政

適時・適正に情報を開示し、良好な関係を維持します。

株主様・投資家様

積極的な情報開示を行い、企業価値向上に努め、株主様の期待に応えていきます。

取引先様

公正で透明な取引を行い、情報の共有化を図るなど、ともに企業の発展を目指します。

フランチャイズ加盟店様

パートナーとしての信頼関係のもと、共存共栄を継続します。

従業員

従業員一人ひとりが能力を発揮できる労働環境を整備し、人材を大切にします。

CSR 推進方針

不二家のCSR

不二家のCSRは、コンプライアンスはもちろんのこと、本業を通じてお客様に安全な商品と最善のサービスを提供すること、適切な情報開示及び環境問題などへの取り組みを通じてステークホルダーの期待に応えていくことだと考えています。

不二家は、CSR活動を推進し企業価値を高めていくために掲げた、「品質」「経営マネジメント」「社会」「環境」の4つの項目に積極的に取り組んでいます。健全な経営を継続することで企業価値向上を目指し、社会から信頼される良識ある企業として責任を果たしていきます。

● CSR 推進体制

CSR活動を強力にサポートするために、社長直轄組織である「CSR推進部」を設置し、この中に「コンプライアンス室」「広報室」「不二家ファミリー文化研究所」を配置、関連部門と連携しながら活動を推進しています。「コンプライアンス室」は、従業員が高い倫理観を持ち、社会の要請に柔軟に応えていく風土を醸成するために、継続的にコンプライアンス教育を行っています。「広報室」は、迅速で公正・公平な情報開示を通じて経営の透明性を高め、社内外に適切な情報を提供しています。「不二家ファミリー文化研究所」では、お客様とのふれあいの場を持つための各種イベント(コミュニケーション)や、食育・環境への取り組みを行っています。



お客様と不二家の信頼関係は、商品のおいしさと同時に、安全な品質のうえに成り立っていると考えます。

商品のおいしさを追求するとともに、お客様に安心してお召し上がりいただける商品を提供する努力を、CSR活動の最優先課題として取り組んでいます。

安全のために

● 品質管理体制

不二家は、社長直轄の組織である食品安全衛生管理本部を中心に、常にお客様の視点に立ち、さらなる満足をご提供するため、食品安全に努めています。

第一に、科学的根拠に立脚したAIBやISO9001といった食品管理システムを導入し、第二に、このシステムを有効に機能させるための安全衛生管理組織の確立を図り、第三に、システムを維持、運営、改善し、組織を活性化させる柱となる従業員教育を行っています。本年度は、食品安全衛生の重要性について全従業員の末端まで確実に浸透させるため、「従業員教育」の再徹底を実施します。

さらに、現場に即した「本物の5S活動」により、より安全で衛生的な環境作りを行っています。

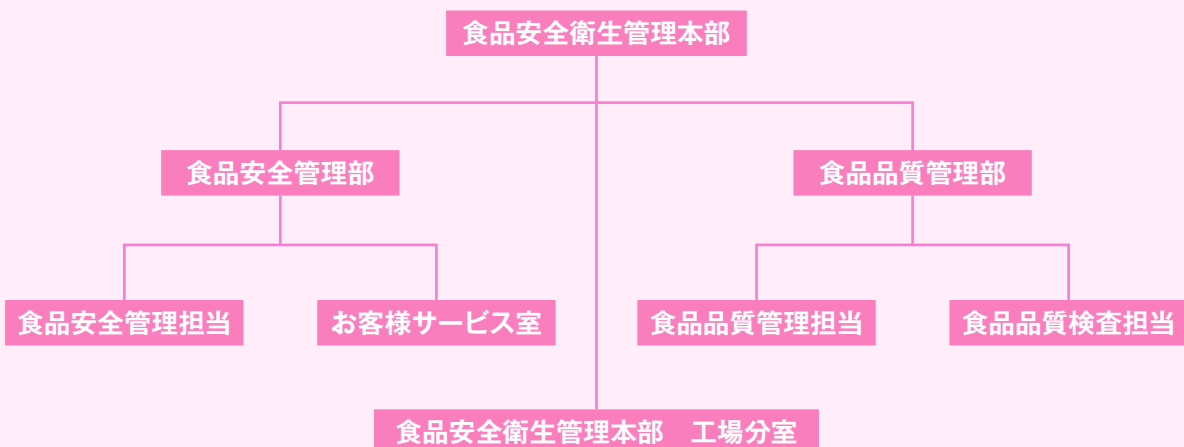
食品安全衛生管理本部は「食品安全管理部」と「食品品質管理部」の2部門体制のもと、組織強化を図っています。

また、各工場に食品安全衛生管理本部の組織として分室を設置し、業務の独立性を高め、チェック機能を強化するとともに、細菌検査体制などについても設備の充実、人員の強化を行っています。



食品衛生教育の様子

食品安全衛生管理本部組織図

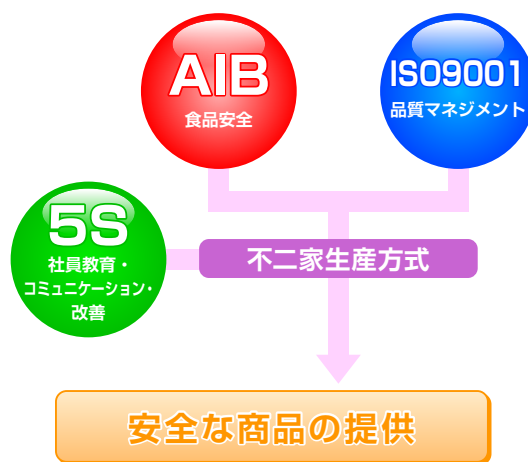


● 食品安全のための独自の生産システム

不二家では食品安全を担保するために、経営陣の強い意志のもと、次の3つに取り組んでいます。

- ①健全で安全な食品を提供するための「AIB 国際検査統合基準」に基づくAIBフードセーフティへの取り組み
- ②お客様満足の向上と製品・サービスの品質の維持・向上のための品質マネジメントシステムである「ISO9001：2008」の運用
- ③より安全で衛生的な生産環境作りのための、全員参加・全員活動の「本物の5S」への取り組み

これらの活動が工場において相互補完し、1つの「不二家生産方式」として統合・機能すべく、日々取り組んでいます。また、本社や店舗においても工場の取り組みを参考に活動し、食品安全の維持・向上に努めています。



● 不二家におけるAIB(American Institute of Baking)フードセーフティの取り組みについて

不二家では2007年2月より、洋菓子5工場、菓子3工場のすべての工場にAIBフードセーフティへの取り組みを始めました。AIBフードセーフティとは、米国にあるAIB(米国製パン研究所)が食品安全衛生に関する法律・規則を基に独自に設定した「AIB国際検査統合基準」に則って、食品安全衛生管理を有効に機能させるために行う活動です。「AIB国際検査統合基準」には、原材料の入荷から製品の出荷まで安全性を確保するために下記の5つのカテゴリーで構成されています。

① 作業方法と従業員規範

製品が従業員や生産工程によって汚染されることを防ぐ方法を示しています。

② 食品安全のためのメンテナンス

施設や設備が衛生上、および食品安全上の危害を招かないように、最適な設計や保全方法を示しています。

③ 清掃活動

製品の汚染を回避するための清掃に関するガイドラインを示しています。

④ 総合的有害生物管理

有害生物(鼠族、昆虫類)による食品の汚染を避けるための管理する方策を示しています。

⑤ 前提条件と食品安全プログラムの妥当性

前提条件プログラムを施設全体に一貫して実施していることを確実にするための基準を示しています。

各カテゴリーで詳細に守る事項が決められており、合わせると約100項目になります。AIBでは、外部専門機関による監査があり、点数で評価します。「AIB国際検査統合基準」の5つのカテゴリーが各200点の配点を持ち、総合評価として1000点満点で採点されます。

不二家ではこの外部専門機関でのAIB監査を実施し、全ての工場に合格点を獲得しました。導入後も「AIB国際検査統合基準」に則って、各工場に工場各部門の代表者で構成される自主検査チームを結成し、月1回、全ての製造設備に対して「AIB国際検査統合基準」に適合しているかの確認のため自主検査を実施し、不適合箇所を抽出し、必要な改善措置を



富士裾野工場でのAIB指導監査の様子

計画的に実施しています。改善措置については、月1回実施している「食品安全衛生委員会」で改善進捗確認を行い、常にシステムの維持向上に努めています。さらに、AIB活動のレベルアップのために、毎年、菓子製造工場の秦野工場、平塚工場、富士裾野工場、洋菓子製造工場の埼玉工場、野木工場、泉佐野工場に外部専門機関によるAIB指導監査を受けています。今年も順次、指導監査を受ける予定です。また、AIBではフードディフェンス(食品への意図的な異物混入の防止)の考え方があり、その点についても、各工場に監視カメラを設置するなど強化対策を進めています。

今後もお客様へ安全な商品をお届けするよう、AIBフードセーフティを継続的に取り組んでいきます。

● ISO9001 : 2008

不二家は、2005年よりISO9001^{*1}品質マネジメントシステムを導入し、2006年6月に外部審査機関による審査で認証を取得しました。現在も、常に安全な商品、品質の良い商品とサービスをお客様にお届けするため、品質方針^{*2}、目標を掲げ、その遵守または達成に向けて、内部監査や製造現場を中心とした各職場での日々の問題発見と改善活動を継続しています。

年2回実施される内部監査では、各職場から選ばれた監査員が工場など現場に赴き、改善活動の進め方や作業手順などの再確認を行い、効果的な活動を維持・向上するための提案がなされ取り組みに生かされています。さらに、これらの活動を学ぶ機会としてとらえ、各職場のリーダー、若手社員、パートナー社員を含めた食に関わる全員の意識と力量の向上を図っています。

また、品質マネジメントシステムに関する活動の情報交換の場として、社長・各部門長出席のもとQMS会議^{*3}を毎月開催しています。QMS会議では、お客様からのご意見も報告され、商品開発、製造現場の改善に生かされています。

今後も、食の安全とお客様満足の向上のため、継続的な改善活動を行ってまいります。

※1 ISO9001適用範囲(2014年5月現在)

菓子事業本部、食品安全衛生管理本部、施設部、購買部、秦野工場、平塚工場、富士裾野工場
[統括部、広域営業部、食品品質検査担当、安全衛生管理本部洋菓子工場分室は除く]

※2 品質方針

社長によって表明される不二家としての品質に関わる全般的な方向付け

不二家 品質方針(2007年3月7日付)は以下の5項目からなる

- (1) 当社はお客様に満足いただける環境に配慮した安全で品質のよい商品とサービスを提供します。
- (2) その為に、各種関連の法律を守り、品質マネジメントシステムを通じて安心・安全な品質保証体制を整備し確立します。
- (3) 作業ルールの遵守はもとより、開発、製造各段階の流れと責任を明確にして、クレームの未然防止と再発防止に努めます。
- (4) 品質マネジメントシステムの有効性について継続的な改善を行います。
- (5) それらの実現の為に、風通しのよい企業風土づくりに基づいて相互のコミュニケーションを密にし、組織体制の整備及び教育を実施してまいります。

品質方針の達成のため、各部門の品質目標を設定し、レビューするとともに、全体に周知徹底します。

※3 QMS(Quality Management System)会議

品質管理責任者が、品質マネジメントシステムが有効に機能しているかをチェックするために、毎月1回及び必要に応じて開催する会議

外部審査機関による審査風景



熱が入り立ち上がって説明している様子



モールド(チョコレートの型)の点検ポイントを説明している様子



チョコレート個装機の改善を説明している様子



金属検出機の運用手順について説明している様子

● 本物の5S活動

2009年に洋菓子工場からスタートした「本物の5S」活動は、これまで菓子工場、洋菓子直営店舗、本社部門と活動範囲を広げ、全員参加の活動として推進してきました。工場では、「安全で、生きがい、やりがいの持てる職場づくり」に取り組み、洋菓子店舗では、「お客様に愛されるお店づくり」を目指して、従業員全員がチームに参加して取り組みを進めています。

2013年度の、洋菓子工場の取り組みとして、推進委員はチームのテーマ(3K、3M)を指導する役割や、品質を維持、向上させる、安全衛生を確保するため「見える化」の徹底など役割と責任を明確化しています。菓子工場では、職場ごとに5Sチームを編成して、メンバー全員で職場にある困りごとを話し合い、協力して快善(※)に取り組むことを活動の柱としています。若手社員やパートナー従業員が中心となって活動を推進する体制へと変わりつつあります。洋菓子直営店舗では、(整理・整頓・清掃・清潔・躰)といった基本的な取り組みを行う中で、一人ひとり主体的に考え行動することで、お客様に気持ち良くご来店いただける店舗作り、職場作りに取り組んでいきます。

今後も5S活動を通して、お客様の笑顔のために何ができるかを各部門、職場のチームで考え、実行していきます。

※快善……従業員が生きがいを持って仕事ができる職場を目指すことから、この漢字表記を使用しています。



平塚工場活動進捗状況をチェックしている様子

VOICE

私は5S活動として、工場の現場内におけるロスの削減、製品の品質向上およびローテーション制度の確立を行ってきました。この活動を行う上で、現場で何をすべきかを明確にし、社員と共に目標を定めていくことにより、社員のモチベーションを上げることに繋げることができました。また、現場全員で力を合わせて活動しているため、現場の雰囲気も良くなり、皆さんが働きやすい環境を作ることができたと思います。今後は、若手社員を中心に5S活動を行っていくことで、社員の成長を促していくと共に、お客様に常に笑顔になれる製品を提供出来る環境作りにも努めていきたいと思っています。そして、自分たちの活動を工場全体に活かしていけるように、様々な快善活動を行っていきたく考えています。



野木工場 洋菓子製造第三課 佐藤 圭太

平塚工場では、職場毎に5Sチームを作り、日々の業務の一部として「本物の5S」活動にも力を入れてきました。今年からは「スマイル運動」も始まり、「お客様を笑顔にする商品作り」をテーマに、活動を行っています。

5S導入前は、生産の中で生まれる「やりづらさ」や「ムリ・ムラ・ムダ」を従業員それぞれが自分の中に秘めた状態でしたが、5S導入後、月1回のミーティングで意見を出し合うことができるようになり、職場に活気が出ると同時に、皆が積極的に快善を行うようになりました。

スマイル運動の導入により、「お客様の笑顔のために、何をすべきか」を従業員一人ひとりが考え行動することにより、仕事に対する新しいやりがいがありました。



平塚工場 チョコレート製造2課 組長 亀下 智

本物の5S活動を洋菓子直営店舗で始めてから2年が経過し、5S推進店舗も全国的に増えました。現在5S活動を通してスムーズに業務ができる職場づくり、また店舗に来店されるお客様は勿論、働く従業員も笑顔で働ける職場づくりを目指しております。今後もスマイル運動を同時に推進していくことで、お客様と直に接することのできる店舗で、お客様のために何ができるかを従業員一人ひとりが考え行動し、働きがいがあると思える店舗づくりを全店でできるよう取り組んでいきます。

洋菓子事業本部 関東RC北部エリア 所沢北野店 瓜生 麻未



● 「防災への取り組み」について

当社では、2012年6月に埼玉工場の製造ラインの一部を焼失しました。被害は軽微でしたが、この火災を機に防火・防災体制を見直し、本社と工場が一体なった「防災巡回点検」を毎月実施しています。火災につながるリスクを摘み取り、消火栓や消火器などの設備不備がないかを徹底して確認しています。さらに本社や各支店でも避難通路の確保や身の回りの整理整頓ができていないかを毎月チェックしています。



●「不二家食品安全の日」について

2007年1月、不二家は社会並びに消費者の方々に多大なご迷惑をおかけし、食に対する不安を与えてしまいました。

不二家は一連の問題を風化させず、「食の安全」に継続的に取り組んでいくため、1月11日を「不二家食品安全の日」と定め、毎年1月に本社及び各事業所にて、式典や集会を行っています。7回目を迎えた2014年の「不二家食品安全の日」の式典は1月10日(金)に不二家本社にて開催されました。

式典では、会長の山田憲典、社長の櫻井康文の講話に続き、「食品安全衛生管理本部の業務方針」が食品安全衛生管理本部長から示されました。2007年に起きた「一連の問題」から7年を迎えた今回は、一般社団法人全国消費者団体連絡会の河野康子事務局長をお招きし、「消費者から見た食品の安全と安心」についてご講演をいただきました。

河野康子事務局長の講演内容

「消費者の要望に応えるために、企業は日々努力しているにもかかわらず、生産の現場と消費の現場がどんどん離れてしまっていると感じています。驚くことに、マヨネーズが卵から作られていることも知らない世代がどんどん増え、母親になっているという現実があります。

食品は、さまざまな人の手を経て食卓に届きます。すべての過程において適切な対策が取られて初めて食品の安全が保たれます。その過程ごとに企業に取り組んでいる努力の実例を、消費者に向けてどんどん発信してください。消費者がその情報を理解し、信頼することが安心へとつながります。企業が責任ある供給・発信をしていくことで、消費者はもっと関心を持ち、責任ある消費をするようになります。

大切なのは『安全』を『安心』につなぐことです。そのためには、日々製造現場で働いている人の意識が最も重要であることを忘れないでください。』

会長山田憲典の講話内容

「食品安全を徹底するために、どの従業員にもできる運動を積み上げていくことが社会に対する貢献につながると思います。

消費者と企業(生産者)との間にすれがあることを認識し、その消費者といかに信頼関係を築いていくかが最も重要です。責任ある態度と言葉で情報を発信しましょう。』

社長櫻井康文の講話内容

「人々の価値観はどんどん変わっていきます。世の中の動きに敏感になることがコンプライアンスそのものです。安全なお菓子を作り、消費者の生活を豊かにするために、使命感を持って日々活動していきましょう。』

VOICE

社員の感想

- ・7年前の一連の問題を風化させないことが大切だと改めて認識した。そのためにも、他社で起きている事象を自社(自分)のこゝとして認識し、その情報を無駄にせず役立てていく必要がある。さらに日頃から心と頭を訓練しておくことも重要だ。そして、食の安全について自部署のみならず他部署の人たちと活発に議論することが大切であると感じた。
- ・当たり前だが、常に消費者の目を意識して、日々の生産活動をしていくことが大切だと改めて感じた。当たり前のこと(ルール)を当たり前に行って進化していくことが大切であると感じた。
- ・我々メーカーで働くものも消費者であり、商品に対して色々な不安をもっている、働いている時は、その事を忘れていたように感じた。今後は、自分達が消費者であるという視点を持って、仕事に取り組む必要があると感じた。



不二家食品安全の日式典の様子
(「食品安全衛生管理本部の業務方針」の発表)



全国消費者団体連絡会 河野事務局長の講演



不二家は、コーポレートガバナンスの強化・充実を経営の重要課題の一つとして位置づけ取り組んでいます。

健全な企業経営を行い、持続的に企業価値向上を高めていくために、実効性のある業務執行とその監督体制を作り上げるとともに、従業員一人ひとりのコンプライアンス意識向上を図りながら企業活動を行っています。

コーポレートガバナンスと内部統制

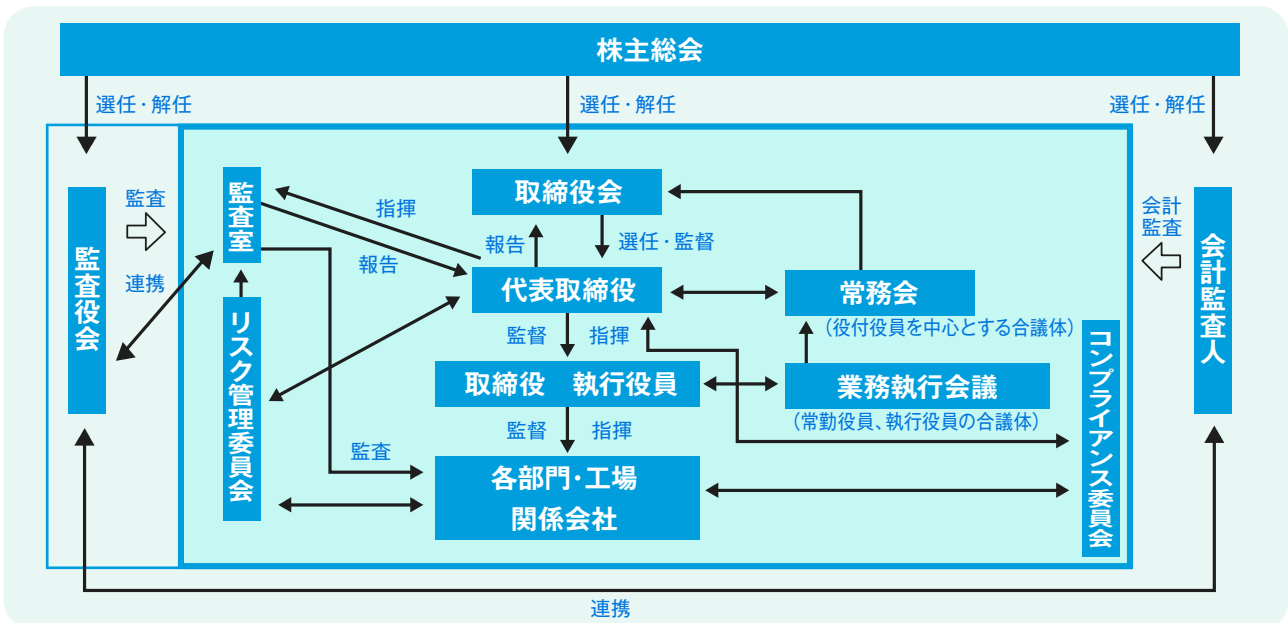
● コーポレートガバナンス

不二家は、企業理念を着実に実現する企業として、経営の健全性(コンプライアンス)・透明性(ディスクロージャー)の原則を守り、継続的に企業価値を向上させ、全てのステークホルダーから満足いただける魅力的な企業の実現を目指しています。

業務の適正さを堅持するために、取締役会・監査役制度を強化し、グループ全体のガバナンス体制を構築しています。

「取締役会」を経営意思の最高決定機関として位置づけ、主要取締役による「常務会」と、取締役に加え執行役員も出席する「業務執行会議」を、毎月2回を基本に開催しています。これによりガバナンス強化とともに意思決定及び業務執行の迅速化を図っています。

また、関係会社の経営と業務推進の方針決定に資するため、不二家本体の経営陣と関係会社社長との協議機関として、関係会社経営報告会(社長会)を設置し、関係会社への監督・支援を実行しています。



● 2013年度内部統制システムの整備・運用状況

当社は、企業会計審議会の示す内部統制の基本的枠組みに準拠して、「内部統制システムの整備に関する基本方針」を制定または随時見直しをはかり、内部統制の整備・運用を行っています。

内部統制報告制度適用6年目の2013年度は、今までよりシステムを成熟させるべく、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を選定し、その中で自己点検や独立的评价を適正に実施しました。

また、在外子会社のある中国における政情不安等がもたらすリスク等、財務報告の信頼性に係るものだけでなく、事業等のリスクが発生するあらゆる可能性を認識し対応できるよう、リスクの再見直しを行っています。

今後もあらゆるリスクを想定し、選定した統制上の要点にかかわらず、それ以外の要点についても検討した上で、整備及び運用状況の評価を行い、財務報告の信頼性をさらに高めることにより内部統制の有効性を確保し、企業としての社会的責任を果たしていきます。

コンプライアンス・セキュリティ

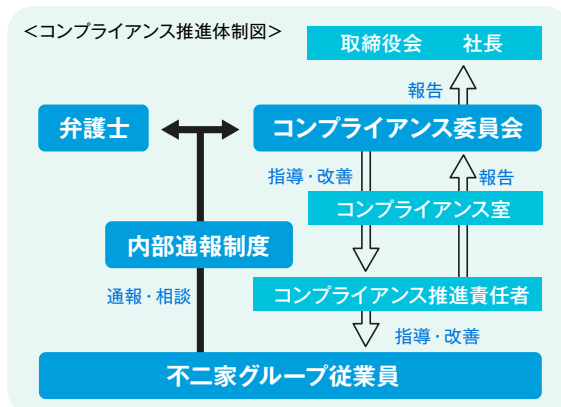
不二家はコンプライアンスを経営の基礎であり、かつ重要課題と考え、公正かつ誠実な企業活動を行い、社会に対する責任を積極的に果たしています。

社会からの要請に応えるべく、コンプライアンスを「単なる法令遵守にとどまらず、社内規程・ルールを守ることに加え、社会倫理にも適合していくこと」と捉え、企業価値向上を目指しています。

● コンプライアンス推進体制

コンプライアンス活動を不二家グループ全体で徹底、推進していくため、管掌取締役を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置し、全社的な方針の制定、事故発生時の原因調査と再発防止策の策定などを行い、その結果を必要に応じて社長、取締役会に報告及び提案しています。コンプライアンス室ではコンプライアンスについての意識付けや啓蒙教育を継続的に実施しています。

また、内部通報(コンプライアンス・ヘルプライン)制度を導入し、当グループの社会的信頼の維持及び業務運営の公正性の確保に努めています。



● 内部通報(コンプライアンス・ヘルプライン)制度

グループ各社内の法令違反などの未然防止と早期発見を目的として、内部通報(コンプライアンス・ヘルプライン)制度を導入しています。

この制度は、不二家グループ各社内にある事案や行動が、法令・社内規定・ルール等に違反するかどうかなど、コンプライアンスに関する相談窓口としても機能しています。

この制度を従業員が活発に利用できるよう、全従業員にコンプライアンスヘルプラインカードを配布しているほか、外部弁護士への連絡窓口を設けることで、コンプライアンスの浸透にも努めています。

● 2013年度のコンプライアンス教育

従業員のコンプライアンスマインドの醸成・啓蒙を、企業価値向上のために欠くべからざる最重要課題と位置づけ、コンプライアンス教育に継続的に取り組んでいます。

2013年度の教育は、従業員のコンプライアンス意識の維持・向上と食品安全衛生の最新情報の共有によるレベルアップを目的に、5月から11月にかけて合計88回行いました。

教育の中では、2007年1月に発生した「一連の問題」を風化させないことや、2013年に多発したソーシャルメディア(SNS)を利用した、悪ふざけ投稿による炎上問題を紹介し、注意を促しています。さらに、直近の食品安全に関わるさまざまな事例を紹介し、従業員が取り組むべき食品安全について情報共有を図っています。

また、新入社員研修、階層別研修、店舗トレーニングなどにおいても、コンプライアンスの基本について教育し、従業員の意識向上に努めています。

● 情報セキュリティ対策

情報資産を過失、事故、災害、犯罪などの脅威から守り、社会とお客様の信頼に応えるため、情報セキュリティ基本方針を定めています。業務遂行上必要な情報資産について、適切なセキュリティ対策を講じ、不正アクセス、漏洩、改ざん、紛失・毀損などが発生しないよう予防を図っています。

問題が顕在化した際には、速やかに是正するように組織と体制を定め、その役割と責任者を明確にしています。また、関連諸規程並びに情報セキュリティ体制の評価と見直しを定期的・継続的に行い、適切に管理しています。

リスクマネジメント

● リスクマネジメント体制の整備

不二家は食品企業として、常に「食の安全」を最優先の課題とし、食品事故の未然防止と製品の安全性を向上させるため、AIB(American Institute of Baking) 国際検査統合基準による指導監査システムを導入するなど、徹底した食品安全管理体制の確立を図っています。

そのほか、事業活動に重大な影響を及ぼす恐れのある「経営リスク」・「事故・災害(環境)リスク」などに対して、事前にリスクを識別・分類・分析・評価、及び、対応を適切に行うための「リスク管理委員会」を設置し、迅速かつ最善の対応を図る体制を整備しています。また、必要に応じて、顧問弁護士などの専門家に助言・指導を求めています。

重大な製品事故や職場での災害リスクが顕在化した場合や、顕在化が予想される場合には、社長が委員長を務める「危機管理対策委員会」を召集し、迅速な対応を図る危機管理体制を整備しています。

東日本大震災を契機に、本社・工場では防災意識の向上と避難訓練を実施することはもちろんのこと、営業・工場の主要拠点14ヶ所に衛星電話を設置し、緊急時の連絡体制を整備しました。

● メニュー不当表示問題

2013年11月8日、不二家及び不二家フードサービスより、不二家レストラン63店舗のメニューに不当表示があったことを、消費者庁への届け出と両社のウェブサイトに「お詫びとお知らせ」を掲載しました。

不二家レストランでは、商品名や説明文に「ステーキ」と記載されているメニューの一部に、成型肉を使用していましたが、その旨を表示していませんでした。

当社の使用していた成型肉は、肩ロースであれば肩ロースを、フィレ肉であればフィレ肉という同部位の牛の正肉を接着した食材であったため、これをかたまり肉として焼いたものについては1枚肉と異ならないという思い込みがあり、メニュー担当者はメニュー上「ステーキ」と表示しても消費者に誤認を与えることはないと考えていました。当社において、関連法令を遵守し社会倫理に沿った企業活動への取り組みが一部不徹底であったことにより、消費者に対する適切な情報伝達についての問題意識を有することができなかつた点が、今回のメニュー不当表示の原因です。

食に関わる企業として、二度と同じ過ちを起こさないために、①関係者を対象にした法令や食材に関する研修会を実施、②不二家グループの確固たるコンプライアンス体制の構築、③不二家の関係部署を含めたメニュー等のチェック体制強化、という再発防止策を講じました。

また、ご迷惑をお掛けしたお客様へのご対応として、贖罪寄付することが最良の方法と考え、公益財団法人国際開発救援財団(FIDR)を通して、「東日本大震災被災地の子どもたちの部活動支援」をさせていただくことにし、2013年12月26日に寄贈しました。

なお、上記の発生原因と再発防止策を記載した報告書を消費者庁に提出し、2014年3月28日には消費者庁から口頭指導を受けました。

今後もお客様を第一に考え、再発防止策を徹底し信頼回復に努めてまいります。



ステーキと表記していたメニュー例



景品表示法研修会の様子



Society

不二家は、社会に開かれた透明性の高い企業でありたいと考え、社外の方々からのご意見をお聞きしながら、「社会貢献活動」「事業活動の情報開示」などを行っています。また、従業員間のコミュニケーションを大切に、活気のある健全な職場の維持に努めています。

お客様とともに

● お客様への情報発信

不二家ウェブサイトでは、お客様が必要としている情報を積極的に発信しています。

お客様に安全な商品をお届けするための取り組みをお伝えする「不二家の取り組み」や、お客様から数多く寄せられる質問を回答とともに掲載する「お客様窓口」など、コンテンツを充実させ、積極的な情報発信を行っています。

今後も、最新の情報をすばやくお客様にお届けできるよう努めていきます。



お客様窓口

● お客様からいただいた声

2013年1月から2013年12月の間に、お客様から約21,300件のお問い合わせやご意見、ご指摘をいただきました。その内訳は、約15,100件がお問い合わせ・ご意見であり、約6,200件がご指摘事項でした。

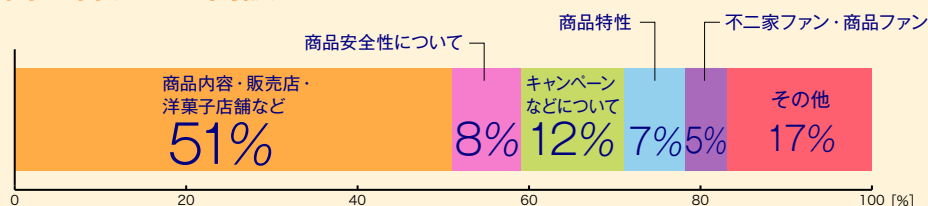
お問い合わせ・ご意見のうち、約51%が商品内容や販売店、洋菓子店舗の営業についてのお問い合わせについてであり、約8%が商品の安全性(アレルギーなど)に関するものでした。

お客様からのお問い合わせの多い商品特性(成分、カロリー情報など)については、ウェブサイト内の商品情報ページにて公開しています(洋菓子事業本部商品の一部を除く)。また、洋菓子店舗では商品のプライスカードにアレルギー情報を掲載しています。

そのほか、フランチャイズオーナーの募集などについてのお問い合わせも数多くいただくため、ウェブサイトでは専用の「お問い合わせフォーム」を設置しています。

今後も、より幅広い情報提供ができるよう努力していきます。

お問い合わせの内訳



● お客様とのコミュニケーション活動

【地域とのコミュニケーション活動】

不二家では、各事業所の周辺地域の皆様と、さまざまなコミュニケーション活動を実施しています。

2013年8月10日には、神奈川県秦野工場にて、夏休み特別企画「オリジナルクッキー作りに挑戦してカントリーマアムの工場を見学しよう」を開催しました。

当イベントは秦野市が、地域産業や仕事の大切さを学ぶこと、また子供同士の交流や親子の絆を深めることを目的に主催し、不二家が協力したものです。

親子11組(22名)の参加者は、カントリーマアムの生地を使い、自分だけのオリジナルクッキー作りに挑戦しました。また、カントリーマアムの製造ラインの見学、ペコちゃんとの交流などを通し、食やコミュニケーションの大切さを学んだ充実した一日となりました。



真剣にカントリーマアムを作っている様子



参加者が作ったオリジナルカントリーマアム



工場内を見学している様子



ペコちゃんと一緒に記念撮影

【従業員家族工場見学会】

2013年8月25日、富士裾野工場にて従業員の家族を対象とした従業員家族見学会を実施しました。

参加者は36名。そのうち18名がミルクキーやホームパイの製造ラインを見学し、それ以外の小さな子供を中心とした18名が、ペコちゃんと一緒にミルクキーやホームパイなどをチョコやジャムと組み合わせたオリジナルお菓子作りに挑戦しました。

家族の仕事や職場についての理解を深めることができた貴重な機会となりました。



アレンジお菓子作りに挑戦



参加者全員集合！

【職場訪問の受け入れ】

不二家では、全国の中学校や高校からのご要望にお応えし、職場訪問の受け入れを実施しています。

2013年には、年間で41校の職場訪問を受け入れました。不二家の企業概要、ペコちゃんの歴史、商品紹介、商品企画のプロセス、商品にまつわるエピソードなどを、スライドを使用しながらわかりやすく説明しています。

また、生徒さんからの質問に答えたり、新商品を試食してもらうなどのコミュニケーションを図っています。



生徒さんからの質問に答える様子

【東日本大震災被災地への支援】

ペコちゃん被災地訪問

全国の児童施設を訪問している「ペコちゃんが行く！ 不二家キャラバン隊」が、2013年12月9日～13日に、青森県黒石市、岩手県久慈市、釜石市、山田町、大槌町の11箇所の保育園を訪問しました。

不二家キャラバン隊は東日本大震災以降、毎年12月に岩手県を訪問し、ペコちゃんが子供たちと交流しています。ペコちゃんと子供たちはダンスやクイズで大盛り上がり！被災地に笑顔のクリスマスプレゼントを届けました。



子供たちと触れ合い嬉しそうなペコちゃん

株主・投資家の皆様とともに

● IRツールによる情報開示

不二家はIRツールを使って、株主・投資家の皆様と綿密なコミュニケーションを図っています。各種IR情報を充実させるとともに、より見やすく、わかりやすい情報の提供に努めています。

IR情報

●ウェブサイト

<http://www.fujiya-peko.co.jp/company/ir/>

IR関連ニュースによる情報発信や財務ハイライトページなど、各種IR情報を充実させるとともに、より見やすく、わかりやすい情報の提供に努めています。



●報告書

事業活動の概況などに加え、不二家の新しい取り組みや新商品情報など、内容を充実させ、株主様のお手元にお届けしています。不二家ウェブサイトにも報告書を掲載しています。



● 株主優待制度

年1回の権利確定日*現在の株主様に対し、3月上旬に発送する「定時株主総会招集ご通知」に株主ご優待券を同封し、送付しています。

*権利確定日…毎年12月31日の最終の株主名簿に記載のある株主様。

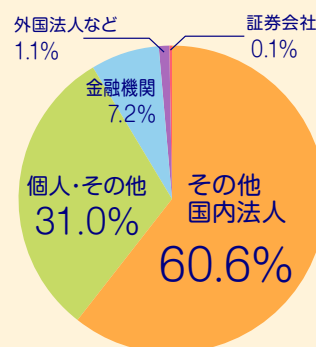


株主ご優待の基準及び内容

株主ご優待券は、不二家の洋菓子店・喫茶及び不二家レストランでご利用いただけます。

所有株式数	ご優待内容
1,000株から4,999株まで	株主ご優待券 500円券 ×6枚
5,000株から9,999株まで	株主ご優待券 500円券 ×8枚
10,000株以上	株主ご優待券 500円券 ×12枚

所有者別株式数



2013年12月31日現在

● 株主様アンケート実施

株主総会に出席された株主の皆様にはアンケートを実施し、当社に対する貴重なご意見をいただいています。今後も、株主総会を株主様の声を直接お伺いすることができる大切な機会と捉え、より多くの株主様にご満足いただける運営を目指しています。

従業員とともに

● 人材育成

不二家の人事制度の最重要ポイントは「やりがいのある仕事に携わり、夢を実現させるための仕組み作り」です。従業員自身が働く中で幸せを感じることで、この従業員の「幸せ」が、商品・サービスを通じてお客様に「幸せ」を提供することにも繋がると考えています。

人材の即戦力化が求められる中、不二家では新人教育を重視し、大学・大院卒社員に対して入社から5年間にOJTをはじめ、コース・職種・役割・資格別などに作成した教育プログラム、集合研修や自己啓発などのフォローアップ研修を行っています。この研修は、問題解決能力とコミュニケーション能力の養成に力点を置いた内容となっています。また、各年度の研修受講生から数名ずつ選抜した縦割りの研修として、フォローアップエクストラ(EX)研修も行っています。

高卒の新卒社員を対象とした研修や、2013年より若手管理職に対する研修も行うなど、さらにきめ細かくフォローすることで、人材の育成に努めています。



フォローアップ研修の様子



総務人事本部 人事部
荒井 宏平

2013年は162名がフォローアップ研修を受講しました。2005年から研修に取り組み、開始から8年が過ぎました。5年間のカリキュラムを終えた修了者を毎年輩出しており、今では社内の中核戦力として各部署で活躍しています。研修の目的は、若手社員が良質な教育を受けることで社内全体のボトムアップを図ることにあります。また部門の枠を超えた全社的視点の形成と、同期の絆を強めることで、不二家へのロイヤリティーを高めることにあります。修了者から将来のリーダーが生まれるのを今から楽しみにしています。

● ジョブローテーション制

計画的な人材育成と組織の活性化を目指し、35歳以下の若手で、同一部署に5年以上在籍する社員を対象に、ジョブローテーションを実施しました。人事部が対象者をリストアップし、各事業部に協力を要請し、実現に向けて行動しています。

● 社内公募制度

個人のモチベーションアップや、組織の活性化などを目的とした人事制度「社内公募制度」を導入しています。

社員主体による配置転換の自由度を高めることによって、人材流動化促進、スキルや意欲のミスマッチ解消、適材適所を実現し、社員が最も力を発揮できる環境を整えるものです。

不二家における社内公募制は、「社内求人型」です。会社が必要とするポストや職種の要件をあらかじめ社内に公開し、応募してきた社員の中から必要な人材を選抜する仕組みです。

この制度の導入後、自身のキャリアアップを目指し、複数の社員が公募を通して新しいポストに就いています。

● 育児と介護を支援

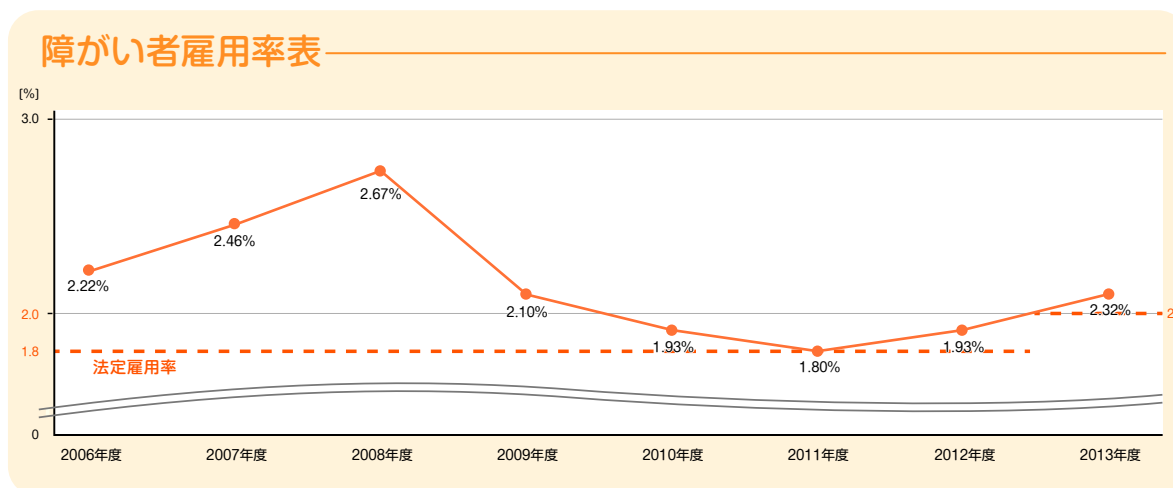
育児や介護を行う従業員が仕事と家庭を両立できるよう、育児介護を支援する制度を設けています。不二家での2013年度育児休業者は16名(うちパートナー社員5名)、男性社員の育児休暇取得は3名、短時間勤務制度利用者は11名でした。また、時差勤務制度を導入しました。今後も制度利用を促進するために様々な施策を講じていきます。

● 障がい者雇用

全国の工場を中心に本部事務職等も含め、障がい者雇用に取り組んでいます。

2004年以降、2012年までは法定雇用率1.8%に相当する障がい者雇用数を維持してきました。

2013年度報告分より法律が改正され、法定雇用率は2.0%となりましたが、2014年3月末現在の障がい者雇用者数は2.32%相当とその基準を維持しています。



● 高齢者雇用

社員にとって魅力的でかつ働きがいがある会社であるために、豊富な経験と技術を持っている社員の再雇用を行っています。

満60歳に達する社員のうち、再雇用を希望し、会社が提示する職務に合致するスキルを有する社員を対象として継続雇用する「再雇用制度」(60歳定年後)を導入しています。2014年3月15日現在、142名が再雇用者として在籍しています。

● 労使協力関係

管理職及び経営に関する部署の人員を除く全社員が「不二家労働組合」に加入しています。

労使間では、健全な企業経営と企業の永続的な発展を目指し、以前より実施している「労使協議会」「経営協議会」に加え、「労使懇談会」(2009年6月より開催)を開催し、経営トップと組合幹部とが諸問題について忌憚のない意見交換を行う場を設けました。

これにより、経営上の課題改善や、人事労務関係の諸施策導入など、スピーディな対応を行っています。

● 労働安全衛生

不二家はお客様に、安全な商品をお届けするために、従業員の安全・健康に配慮し、全従業員が安心して働くことのできる職場環境作りが不可欠である、と考えています。

そのために、労働災害の防止や、心身の健康維持増進に向けた施策を実施しています。

全社的な労働安全方針の策定や安全対策の実施、情報共有などを行う「中央労働安全衛生委員会」と全国の工場、営業所・支店、また直営店舗(エリア毎)の「労働安全衛生委員会」を組織して、現場での問題解決や緊急連絡網の整備、また災害時において迅速な対応が出来るよう取り組んでいます。

労働安全に対して経営トップから強い意志が示され、労働組合も含めた中央労働安全衛生委員会メンバーを中心に年に1回全国

の工場を巡回し、設備の改善は元より、厚生施設のチェックも行うなど、本質安全化と快適な職場作りの確立を進めてきました。また、赤チン災害も含め災害の程度に関わりなく、全国の事業所より情報を収集・分析しています。各事業所で労働災害の対策を立て、場合によっては他事業所への水平展開も行った結果、労働災害(*)の発件数は2010年度39件、2011年度20件、2012年度12件、2013年度7件と年々減少してきました。*不二家の社内基準による、休業、不休業も含めた労働災害

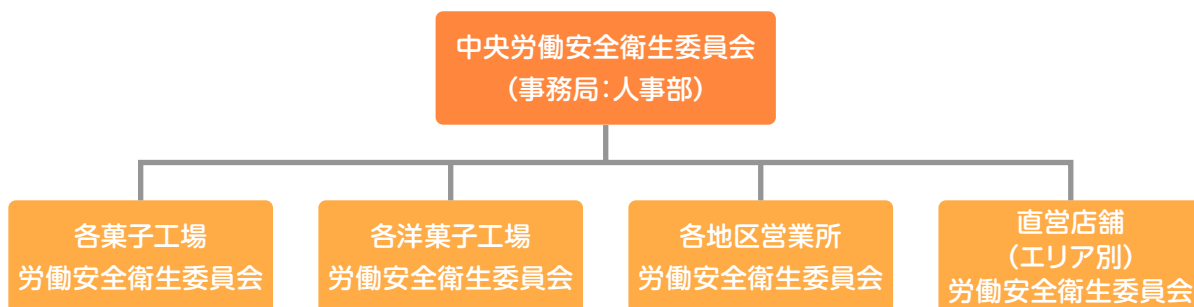
本年度は労働安全衛生規則の改正があり、その法改正に向けた対応を確認し実施するなど、引き続き、機械などハード面の対策を進める一方、労働安全教育の社内での体系化に向けた取り組みを進めるなどソフト面の充実にも着手しています。

● 不二家労働安全衛生基本理念

「常に活力ある企業であるために、
社員の安全と健康の確保を第一とし、
働きやすく、快適な職場作りを行います。」

- ①労働災害ゼロを目指します。
- ②健康管理の対策を講じ、社員の健康維持増進を進めます。
- ③正規社員だけでなく、パートナー社員など臨時社員を含めた全社員で労働安全衛生の取り組みに参画し、全社員で労働安全衛生の認識を共有します。

2013年 不二家労働安全衛生スローガン
「安全第一「愛」」で防ごう労働災害



労働災害防止のための工場巡回の様子



泉佐野工場 総務人事課 課長
山下 喜久男

生産工場での最優先の課題のひとつは、従業員の労働安全を確保することです。

「愛」の標語のもと、従業員一人ひとりを思いやる心を持ち、「職場パトロール」「安全巡回」等を通じて、3K、3Mの排除に取り組んでいます。

従業員の安全のために、環境整備はもとより、従業員の意識を高める教育を中心に、今後も活動を進めていきます。

従業員に働き甲斐のある職場を提供し、お客様に安全な商品をお届けできるよう努めてまいります。

● 社内情報の共有

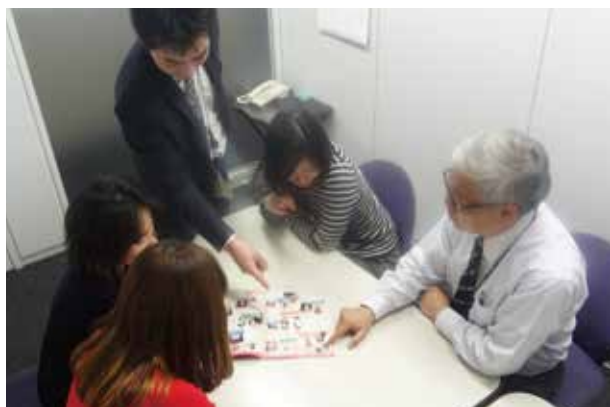
不二家は、横断的に集めた社内若手メンバーを中心に小委員会を運営し、2種類の社内報を発行しています。

毎週金曜日に発行している週刊社内報「WEEKLY Sweeet!! (ウィークリースウィート!!)」は、社内イントラネットに掲載し、社内情報の発信を行っています。社内情報のいち早い共有を目的に、各事業部や、工場、本社部門に加え、不二家グループ各社の情報を毎週お届けしています。

新商品情報や新店舗開発情報、工場やエリアごとの取り組みなど不二家グループ内のさまざまな情報を紹介し続けています。



小委員会会議の様子



「Sweeet!!」を読みながら談笑する従業員

年3回発行している冊子の社内報「Sweeet!! (スウィート!!)」は、「今の不二家をみる! 明日の不二家を考える!!」をテーマに、経営からの情報発信をはじめ、日常業務で役立つ企画や、新商品情報などバラエティに富んだコンテンツを掲載し、従業員間のコミュニケーションツールとしても活躍しています。



「Sweeet!!」



「WEEKLY Sweeet!!」



CSR推進部 広報室 主査
上田 博子

「Sweeet!!」は、さまざまな部署から選抜された若手編集員でページ内容の企画、取材、編集を行っています。特集や連載内容を検討するにあたっては、経営トップからの情報発信、従業員の声、社内情報をバランス良く紹介できるよう気をつけています。また、社内報をコミュニケーションツールとしてより活用してもらえるよう、「読みたくなる」誌面作りを目指しています。

多様な部署の社員が編集を担当することは、通常では関わることのない部署の社員とのコミュニケーションの活発化、編集員自身の調整・編集能力のスキルアップも目的としています。

今後も従業員の声を聞きながら、読んで楽しい、ためになる社内報作りに取り組んでまいります。

不二家ファミリー文化研究所

● 不二家ファミリー文化研究所とは

不二家ファミリー文化研究所は、私たち不二家の「もっともっとファミリーの幸せに貢献していくためには何ができるだろう?」という想いから2003年4月に誕生しました。

不二家ファミリー文化研究所の所長は、研究所の創始者であり、現在は社長である櫻井康文が兼務しています。

テーマは「伝えていきたい自然 伝えていきたい家族の絆」。

食品を扱う私たちにとって、いうまでもなく大切な「自然」を守っていくこと。そして創業以来、「ファミリーの不二家」という企業理念のもと、お菓子を通じて家族の幸せな時間を作るお手伝いをしてきたこと。それらのことを、今後も具体的に行動し伝えていくための研究所です。

【活動内容】

不二家ファミリー文化研究所は、「家族について考え、絆を深めていただけるきっかけ作りのお手伝い」や、「次世代に残していきたい自然や文化についての知識を、私たち自身が深め、伝える活動」「お菓子に対する興味喚起や情報の提供」などを行っています。

具体的な活動については、ウェブサイト「ペコちゃんの森」や、不二家ファミリー文化研究所が発行するチラシ(アニバーサリー通信)にてご報告しています。毎月不二家の日(28日)に発行している「アニバーサリー通信」は、全国の不二家洋菓子店舗、営業所、関連する工場や本社などに配布し、不二家ファミリー文化研究所の活動やウェブサイトのご紹介、そのほか公募の告知などを行っています。

【ウェブサイト「ペコちゃんの森」】

不二家ファミリー文化研究所の設立とともに、ウェブサイト「ペコちゃんの森」(<http://www.fujiya-peko.co.jp/mori/>)を立ち上げ、2009年4月にはより見やすいサイトへとリニューアルを行いました。

ウェブサイト「ペコちゃんの森」は、毎月25日に定期更新を行い、不二家ファミリー文化研究所が行うさまざまな活動を、楽しみながらご覧いただけるご報告の場になっています。また、お客様とのコミュニケーションの場としても活用しています。



ウェブサイト「ペコちゃんの森」コンテンツ

● 親子イベントなどの公募

“食育”“家族の絆”などをテーマにしたイベントの紹介や参加募集の告知、全国の児童施設を訪問している「ペコちゃんが行く! 不二家キャラバン隊」の訪問先募集の告知などを行っています。

● 「食」に関するコラムの掲載

毎日新聞社発行の「毎日小学生新聞【食の歳時記】」に掲載している食文化にまつわる話や、季節の歳時に関するコラムを、イラストを交えながらご紹介しています。

● 日本の風土や文化についてのご紹介

日本各地の風土や文化、現地の人々との温かい交流のエピソードを、ご紹介しています。

● 世界の文化についてのご紹介

日本にお住まいの外国人の方や、海外に滞在経験のある日本の方から、その国の食文化や生活習慣、季節のイベントや誕生日などのお祝いについてインタビューをし、写真を交えてご紹介しています。

● アンケート調査の実施

「家族」や「夫婦」、「日本の文化」など、さまざまなテーマを基にアンケート調査を実施し、調査結果を毎月ご紹介しています。

また、過去に連載していたマンガで読めるアンケートレポートも掲載しています。

このほかにも、パソコンでご利用いただけるペコちゃんの「壁紙カレンダー」の無料配信や、不二家ファミリー文化研究所が参加したイベントのご報告なども、随時ご紹介しています。



● イベント活動

不二家は、「食育」や「自然」をテーマにしたイベントの企画・実施や協賛などを行っています。親子のふれあいの場や、お客様と一緒に楽しく学ぶ場を、意欲的に設けています。

【第3回ペコちゃんキッズアカデミー】

「ペコちゃんキッズアカデミー」は、食の大切さを学び、家族の絆を深めることを目的に、2011年よりスタートした、不二家ファミリー文化研究所主催のイベントです。

2013年4月3日、「いちごの里」(栃木県小山市)にて第3回を開催し、10組(28名)の親子が参加しました。



第3回ペコちゃんキッズアカデミーでのいちご狩りやショートケーキ作りの様子
(2013年4月)

【ペコちゃんが行く! 不二家キャラバン隊】

「ペコちゃんが行く! 不二家キャラバン隊」は、2010年に開始した、ペコちゃんがキャラバンカー「ペコちゃん号」に乗って全国の児童施設を訪問する企画です。

訪問先の施設では、ダンスやクイズなど、ペコちゃんと一緒に楽しみいただけるプログラムを実施しています。



「ペコちゃんが行く! 不二家キャラバン隊」児童施設訪問の様子

【第7回銀座柳まつり】

「銀座柳まつり」は、銀座から日本全国へ笑顔を届けるさまざまなイベントで構成されるお祭りです。

2013年5月5日、第7回が開催され、ペコちゃんが人力車に乗ってパレードに参加するなど、不二家が協賛しました。

銀座でもペコちゃんは大人気! 大勢の方々と楽しいひとときを過ごしました。



パレードに参加したペコちゃん

【元町ハロウィン】

「元町ハロウィン」は、横浜元町ショッピングストリートのお店のスタッフが、いろいろな仮装でお子様にお菓子を配る、手作り感あふれる地域イベントです。

ハロウィンを楽しみながらも、「ありがとうの気持ちを伝える大切さ」をお子様たちに体験していただけるのが、このイベントの魅力の1つでもあります。

不二家はそんな、お菓子とお子様を「ありがとう」の言葉でつなぐこのイベントの主旨に賛同し、2007年よりグッズやお菓子を提供するなどの協賛をしています。

また不二家にとって、横浜元町は、1910年(明治43年)に、初めて洋菓子店を開いた「発祥の地」です。そんな、横浜元町のイベントに、2013年もペコちゃんとポコちゃんがオリジナルハロウィン衣裳で参加し、地域の方々との交流を深めました。



元町ハロウィン(2013年10月)



Environment

省資源、省エネルギー、CO₂削減などの環境保全問題への取り組みを通して、より良い商品とサービスをお客様に提供するように考えています。
 ISO14001活動の中で、従業員の環境意識向上にも取り組んでいます。

環境方針

【環境方針について】

不二家は「環境基本理念」「環境基本方針」を基本に、従業員一人ひとりが不二家の果たすべき責任と役割を認識し、持続的成長、資源循環型社会の実現に寄与する「地球にやさしい企業」を目指しています。また、積極的に地球環境、生態系への負荷を低減し、生物多様性の保全と資源の有効活用に向けた取り組みを継続的に推進しています。

〈環境基本理念〉

- この恵み豊かな地球環境を守り、健全且つ安全で自然環境を含む生態系が保全されることが人類共通の重要課題であると認識いたします。
- 株式会社不二家は「食」を通じて、人々の健全と安全を守るとともに、豊かさ、そして安らぎを育み、生活文化創造に貢献してまいります。
- 今後は、さらに事業活動のあらゆる側面で地球環境への負荷を最小限とするよう努力し、「環境との調和」を図るよう努めて、人と自然との共生を図り、「地球環境にやさしい企業」を目指して行動してまいります。

〈環境基本方針〉

1. 事業活動、商品、業態、サービスなどがかわる著しい環境側面を常に認識し、環境汚染の予防を推進するとともに、技術的、経済的に可能な範囲で、環境目的、目標を定めて、環境保全活動の継続的な向上、改善を図ります。
2. 環境関連の法律、規制、協定などの尊厳はもとより社会要請に応える環境管理体制の整備と充実を図ります。
3. 事業活動における省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、リサイクルおよび環境汚染物質排出量の削減に取り組みます。
4. 地球における緑化、環境美化活動、環境保全への支援、活動に取り組みます。
5. 全従業員に対して環境教育や啓蒙活動を積極的に行い、環境保全に関する意識向上を図ります。

環境マネジメント

【環境マネジメント体制】

環境マネジメント体制の強化と、迅速な行動・コミュニケーション強化を図るため、各工場を社長直轄の体制としています。また、ISO14001認証取得工場以外にも「環境管理委員会」を設置し、目的・目標の達成のための取り組み状況とパフォーマンス達成状況や環境関連法規の厳守状況を毎月確認し、組織的に推進することで、継続的な改善を図っています。

さらに、全工場間の技術や環境情報を共有する目的で、「環境管理担当者会議」を定期的開催し、目標や課題への具体的解決策を検討し、改善に結び付ける環境マネジメントを推進しています。



● 内部環境監査・研修

ISO14001認証取得工場ではISO14001:2004規格の規定に基づき、不二家の内部環境監査員資格をもった監査員が、各工場ごとに相互に連携して内部環境監査を行い、環境マネジメントシステムが適切に実施、維持されていることを確認しています。

内部環境監査の結果は経営層に報告し、環境マネジメントレビューの際の重要な資料となります。また、内部環境監査員の資格を取得するための研修を2013年9月に実施し、4事業所の27名が受講しました。



内部環境監査員研修の様子

各工場の内部環境監査員数（2013年）

事業所	内部環境監査員数(人)
秦野工場	55
平塚工場	55
富士裾野工場	40
埼玉工場	21
野木工場	8

● 環境教育・緊急事態訓練

環境マネジメントシステムの運用には、システムを運用する従業員一人ひとりの意識の向上、適切な知識が欠かせません。ISO14001認証取得工場では、全従業員を対象とした環境教育を実施して、環境保全に関する知識レベルの向上に努めています。また、緊急事態を想定した訓練・テストを定期的に行い、環境への影響の予防及び負荷の低減に努めています。

ISO14001認証審査



外部認証機関による審査の様子(平塚工場)



緊急事態訓練の様子(秦野工場)

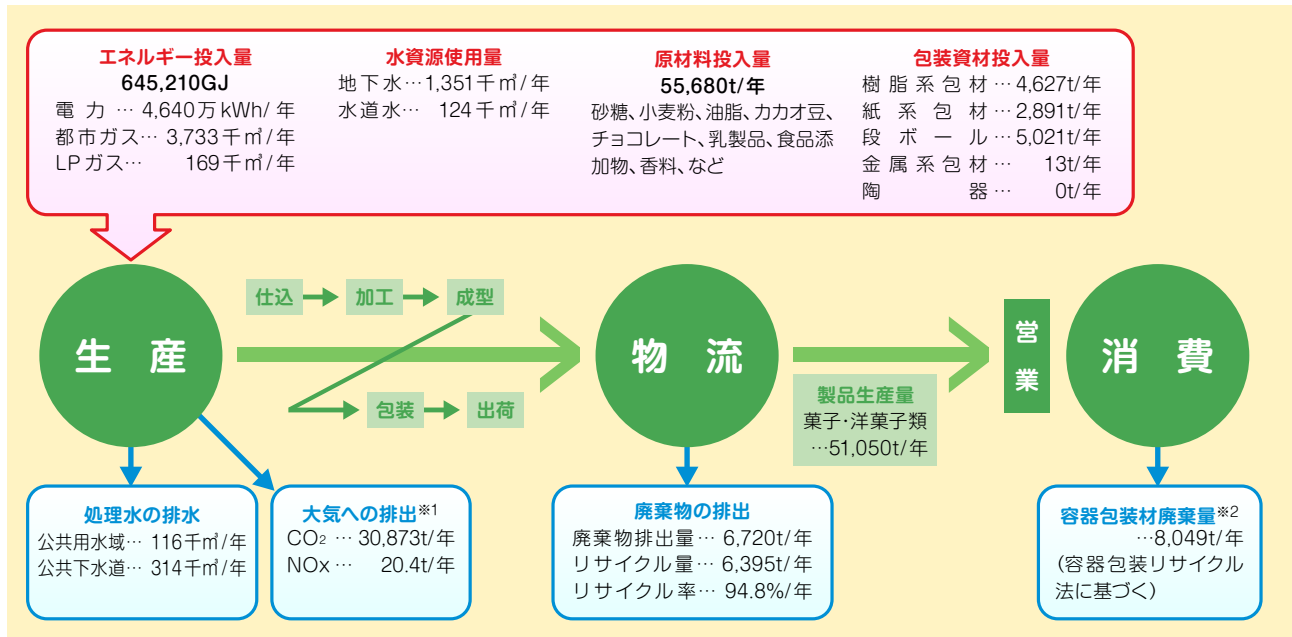


秦野工場 総務人事課 組長
松永 陽平

秦野工場では、環境方針の基本理念として「地球環境にやさしい事業活動」をモットーに、エネルギー・廃棄物削減の取り組みを行っています。省エネ設備の導入やお菓子を作る上での成型・包装時不良の削減、環境へ負荷を与えるような事態（機械油の漏洩など）が発生した際の訓練も行っています。このような環境管理活動を通して、活動の目的や重要性を認識することができました。今後も、さらに環境負荷の低減に向けて取り組みを進めていきます。

事業活動のマテリアルバランス

2013年度製造5工場(秦野工場、平塚工場、富士裾野工場、野木工場、埼玉工場)のマテリアルバランス(2013年1月～2013年12月)



※1:投入されたエネルギーについてCO₂を算出しています。

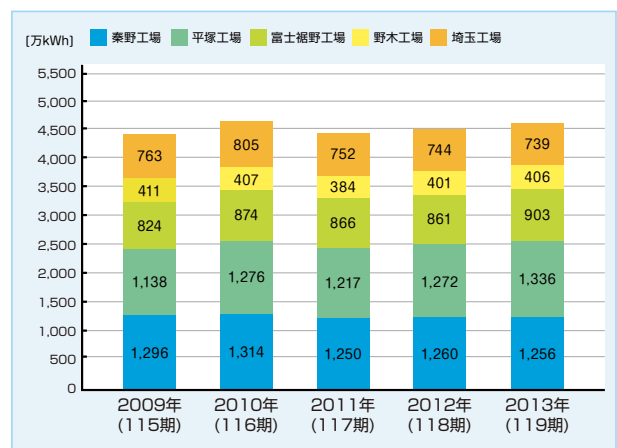
※2:容器包装材廃棄量は、不二家全体(食品を除く)の2012年度実績になります。

● 省資源・省エネルギーへの取り組み

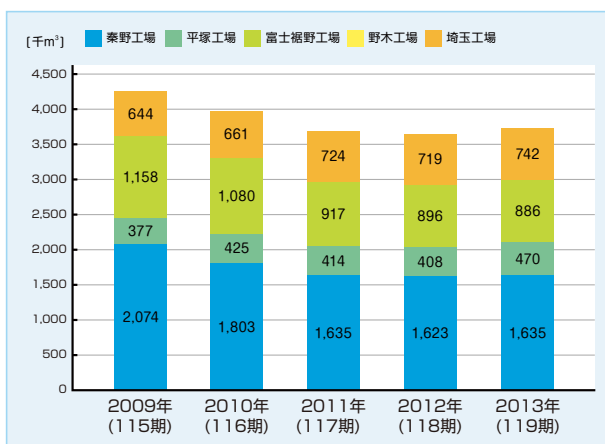
【エネルギー源使用量の推移】

不二家は各事業所・工場において、省エネルギー設備の導入・運転の合理化や空調設備の運転方式の改善など省エネルギー対策に努めています。今後も、設備の整理統合や新技術の導入検討などエネルギー使用量の削減に積極的に取り組んでいきます。

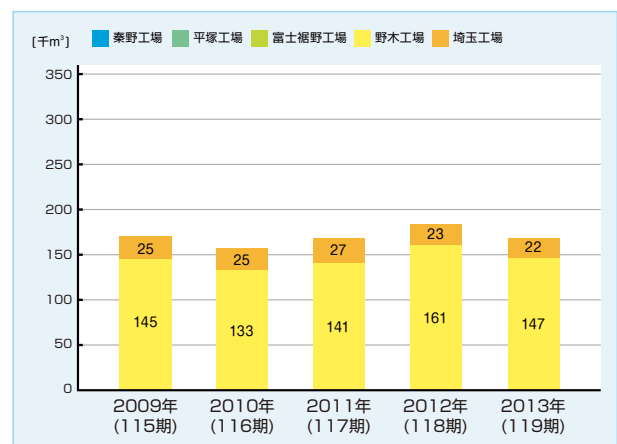
2013年度のエネルギー使用量として、電力使用量は2012年度比で2.3%、都市ガス使用量は2.4%の増加となっています。主な要因は、生産量の増加にともなうエネルギーの増加によるものです。LPガスの使用量は前年と比較して8%削減となりました。主な要因は、一部工場でLPガスから都市ガスに変更したことによるものです。



電力使用量推移



都市ガス使用量推移



LPガス使用量推移

環境保全活動

● 地球温暖化防止への取り組み

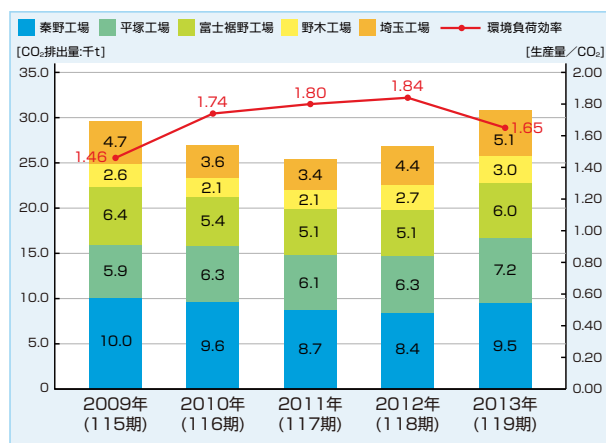
【CO₂排出量削減対策】

不二家の各工場では、CO₂の排出量削減対策として、冷凍機、空調機やトランス(変圧器)などの設備を環境負荷の低いものへ順次、更新しています。

泉佐野工場では、2013年度に、冷凍機に使用する設備4台をインバーター※1タイプに更新したことにより、CO₂排出量を年間57.8t削減することができました。また、製造5工場におけるCO₂排出量は、2012年度比で14.7%増加しましたが、各工場で施策を行ったことにより、環境負荷効率(生産量/CO₂)は改善されました。



更新した冷凍設備(泉佐野工場)



製造5工場におけるCO₂排出量推移

【節電対策】

本社における夏季の節電対策については、従来から行っている「クールビズ」の取り組みの徹底や、2009年から実施している19時のフロア一斉消灯を継続して行っています。また、2013年度も、毎週水曜日に「ノー残業デー」を実施し、各人が「仕事の内容」を見直すとともに、「ワークライフバランス」(人生を充実させる働き方・生き方であり、社員の仕事と生活の調和)の推進に努めています。

また、各工場では、蛍光灯などの照明を省エネルギー効果のあるLEDタイプへの交換や、空調設備の室外機を水で冷却することにより、電力削減を図る取り組みを行なっています。



更新したLED照明(埼玉工場)



室外機の冷却装置(富士裾野工場)

※1 インバーター:周波数の設定により、モーターなどを状況に応じて最適な回転数に制御する装置。

● 環境に配慮した商品設計

【エコプロダクツ2013に出展】

2013年12月に東京ビッグサイトにて開催された国内最大級の環境展示会「エコプロダクツ2013」(主催：一般社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社)に、前年に引き続き山崎製パン株式会社のグループ企業として出展し、容器包装軽量化の取り組みや地域特産物を利用した商品の紹介を、来場者の方々にご紹介しました。



地域特産物を利用した商品・容器包装軽量化の展示



展示会場の様子

● リサイクルの取り組み

【食品廃棄物リサイクルの取り組み】

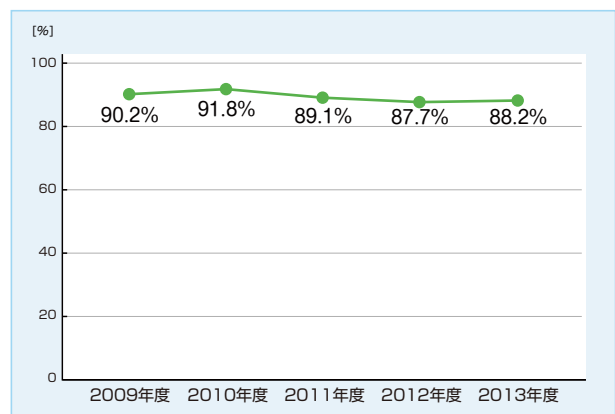
工場では廃棄物の発生抑制に努めるとともに、製造過程から排出される食品廃棄物の肥料化や飼料化など、さまざまな施策を着実に実行することにより、食品廃棄物の削減・リサイクルに取り組んでいます。引き続き、付加価値の高い再資源化に積極的に取り組み、限りある資源の有効的な循環利用を推進していきます。

不二家の2013年度の食品リサイクル率は88.2%^{※1}となりました。

これは店舗や工場より排出される動植物性残さ^{※2}などの食品廃棄物や、製品廃棄物も含めた全社でのリサイクル率であり、排出される食品廃棄物の製品特性に合わせた処理委託先の調査、検討及び変更を行ったことにより、前年度と比較して0.5ポイント向上しました。

※1 食品リサイクル法に基づく、定期報告のリサイクル率です。

※2 動植物性残さ：食品製造業など特定の業種の製造工程から排出される固形状廃棄物で、原料として使用した動植物に関わる不要物。大部分は肥料・飼料として利用され、一部が焼却、埋め立て処分されます。



食品リサイクル率推移

● 各事業所における環境保全活動

【社会貢献活動】

不二家の各事業所では、地域社会との交流を図りながら、積極的に環境保全活動に参加し、企業としての社会的責任を果たしています。

【平塚工場の相模川現地状況調査への参加】

平塚工場では、毎年恒例となっている「平塚地区環境対策協議会」主催の相模川現地状況調査(チューリップ球根の植栽及び河川敷周辺の美化活動)に参加しました。

2013年度は親会社である山崎製パン株式会社と、その関係会社の株式会社サンデリカも参加しました。



相模川河川敷の植栽及び美化活動(平塚工場)

その他工場の 地域社会への取り組み

- 不法投棄撲滅活動
- 工場見学の受入
- ノーマイカーデー実施
- 五竜の滝清掃活動
- 親子水生物調査

VOICE

近年、相模川はゴミが増え続けており、水が汚れるのを防ぐためにも、私は、毎年の清掃活動に参加しています。しかし、まだまだゴミが落ちているのが現状です。今後も周辺各企業と協力し、地域の美化活動に貢献していきたいと思えます。

平塚工場 工務課 飯嶋 瞭太



【富士裾野工場のアマゴの放流活動への参加】

富士裾野工場では、「狩野川水系水質保全協議会」が主催するアマゴの放流活動に参加し、生物多様性の保全活動に積極的に取り組んでいます。



アマゴの放流(富士裾野工場)

【泉佐野工場のクリーングリーン活動への参加】

泉佐野工場では、「食品コンビナート協会」主催の清掃活動である「クリーングリーン」を年間2回行っています。各企業から参加した約100名で、海の周りや道路を清掃しました。



クリーングリーン活動(泉佐野工場)

※クリーングリーンとは、企業の社会貢献活動を社員のボランティア活動に発展させたものです。
クリーン活動とは、単なる清掃活動ではなく「心のクリーン」すなわち自ら進んで行う社会奉仕活動のことです。また、グリーン活動は植樹活動を含め、自然環境の保全といった幅広いとらえ方です。

● トラスト活動

【黒姫「ペコちゃんの森」】

不二家ファミリー文化研究所は、自然環境保護活動の一環として、荒廃した森を購入し、その森を整備保護していただける団体にトラスト活動として寄付をしました。

また、購入し寄付した森は、寄贈先のご理解を得て、「ペコちゃんの森」と命名し、継続的に整備活動への支援・参加をしています。寄贈先は、環境保護団体「CCC自然・文化創造会議/工場(議長 倉本 聡氏、副議長 C.W.ニコル氏)」です。

この2,000坪強の「小さな森」は、熊笹や灌木の覆い茂った藪そのものでしたが、数年の手入れを経て、徐々に明るさを取り戻し、2012年5月には、整備活動始めて以来初の植樹を実施しました。今後も定期的に不要な下草を伐採して地面に日光を導き、ブナやミズナラをはじめとする木や草が生い茂る明るい森を作っていくのが目標です。

自然に手を加えることによって、森にどのような変化が生ずるのかを観察するのも、森作りの仕事のひとつです。私たちは、徐々に変化をしている「ペコちゃんの森」の様子を、ウェブサイト内にて定期的にご報告しています。この森を通して、自然の力と人間の営みについて学びながら、森林の再生と保護、環境教育活動を継続して行っています。

【従業員による森林整備活動の実施】

不二家ファミリー文化研究所では、CCC自然・文化創造会議/工場様のご協力のもと、有志従業員による「ペコちゃんの森」の整備活動を定期的に行っています。

2013年は、7月に「刈り払い作業(=苗木の成長を妨げる雑草などを切り払う作業)」を実施しました。社長の櫻井を含む不二家有志従業員参加者16名は、夏の熱気と湿気の中、水分補給をしながら作業にあたりました。苗木が成長して森になるまでは数十年を要します。私たちは変化していく森の様子を肌で感じ、森林整備の大切さ、健康な森作りについての知識を高めながら、これからも整備活動を続けていきます。



「ペコちゃんの森」森林整備活動報告2013

刈り払い作業

<http://www.fujiya-peko.co.jp/mori/forest/clean/>

VOICE

私は今回、2度目のペコちゃんの森の整備への参加でした。前回の植樹の際も参加しましたので、自分たちが植えた樹がどう成長しているのか、まさに「おかあさんの気持ち」で参加しました。

森には、以前より葉が増え成長しているブナの苗木があり、力強く育っている姿に感動しました。

整備の作業中には森のおいしい空気、バッタやカエルといった動物、自然と触れ合えます。これからも多くの社員に参加してもらい、一緒に森の成長を見守っていきたいです！

総務人事部 人事部 藤巻 ときたか
伶駿



不二家のあゆみ

創業の精神

横浜開港後の山下町に外国人居留地が、山手に山手居留地がそれぞれ設けられ、両地区を結ぶ場所にあった元町通りには、当時は日本には珍しい喫茶店やベーカリー、洋服店、洋風家具店などが軒を連ね、文明開化を支えました。

そんな新しい文化を、いち早く吸収してきた街、横浜元町で創業したのが不二家です。当時ではとてもモダンなローマ字「FUJIIYA」の看板を掲げ、1910年に創業した不二家は、「進取の気鋭」で栄えてきました。

不二家の作った菓子は、居留者の外国人にとっては『懐かしい母国の味』、横浜に住むマダムにとっては『珍しくて新しい文明開化の味』でした。不二家の商品や喫茶を楽しむ時間は、彼女たちの至福の時間でした。

不二家は、ただ単に食料を売っていたのではなく、海外の菓子や喫茶を通して、「心の豊かさ、笑顔の生まれる時間」を提供していたのです。

年	主な出来事
1910年	藤井林右衛門(25歳)が横浜市元町2丁目86番地に洋菓子店を開店
1918年	シュークリーム、エクレアなどの販売を始める
1922年	ショートケーキの販売始める(1個8銭) クリスマス製品も販売する
1923年	銀座6丁目店開店
1934年	フランスキャラメル発売
1935年	チョコレート・キャンディの生産開始 ハートチョコレート発売
1938年	株式会社第二不二家を設立 資本金20万円 合名会社不二家を合併 資本金60万円 株式会社第二不二家の商号を、株式会社不二家と改称
1950年	不二家のアイドル「ペコちゃん」誕生 年齢6歳
1951年	ミルクィ発売 「ペコちゃん」のボーイフレンドとして「ポコちゃん」誕生する 年齢7歳
	<p>ミルクィがヒット</p> <p>1951年、水飴と練乳、この二つの製菓材料を使用し、洋菓子製造で得た乳の知識を生かしてようやく完成させた新しい味が「ミルクィ」でした。練乳を50%近く使い、思い切ってまろやかな味を出した、全く新しいおいしさ、豊富な栄養、廉価という3拍子が揃った当時としては信じられないほど賛賞で新しいお菓子でした。この商品は「ミルクィ」と名づけられ、洋菓子店で販売するや否や、たちまち話題になりました。当時から、洋菓子店店頭飾られ人気を得ていた「ペコちゃん」をパッケージに使ったことも功を奏し、大ヒット商品となりました。創業者の藤井林右衛門は、多くの子供たちに、おいしくて栄養のある菓子を届けたいという想いから設備を整え、1952年から一般流通への卸売(全国発売)を始めました。「ミルクィ」は洋菓子屋として創業した不二家が、卸売事業に参入するきっかけになった商品でした。</p>
1952年	ソフトクリーム国産第1号を銀座6丁目店で売り出す クリスマスセール開始
1954年	パラソルチョコレート発売・ポップキャンディ発売
1956年	バレンタインセール開始
1959年	平塚工場(神奈川県平塚市)完成
1960年	モンドセレクション当社第1回の商品出品で金賞をとる
1962年	東京、大阪、名古屋の各証券取引所市場第二部に株式上場 ルックアラモード発売 札幌工場(北海道札幌市)完成
1963年	フランチャイズ第1号店 京都伏見店開店
1964年	ネクター発売
1965年	東京、大阪、名古屋の各証券取引所市場第一部に株式上場 オバQシリーズ発売
1968年	ホワイトデーセール開始 ノースキャロライナ発売・ホームパイ発売 秦野工場(神奈川県秦野市)・埼玉工場(埼玉県新座市)完成
1969年	野木工場(栃木県下都賀郡野木町)完成
1971年	泉佐野工場(大阪府泉佐野市)完成
1972年	英国ロントリー マッキントッシュ社と技術援助契約を締結(現在は契約解消)



不二家のあゆみ

年	月	主な出来事
1973年		キットカット発売 ピーアールジャパン株式会社(現B-Rサーティワンアイスクリーム株式会社)を設立し、アイスクリームチェーンに着手
1976年		米国ペプシコ社と合併会社不二家フリトレー株式会社を設立、スナック食品部門に進出(現在は契約解消)
1978年		株式会社不二家ロードサイドレストラン(現株式会社不二家フードサービス)を設立 ロードサイドレストラン1号店 川口青木店開店
1979年		米国ハーシーフーズと技術援助契約及び輸入総代理店契約締結(現在は契約解消) ピーナッツチョコレート発売
1982年	3	仏国ソシエテ・ヌーベル・ダロワイヨ社と技術援助契約及び輸入総代理店契約締結 自由が丘にダロワイヨ1号店を開店
	11	フランチャイズチェーン導入の貢献により通商産業大臣賞受賞
1984年	7	カントリーマアム発売
1989年	6	不二家とネスレ社との間で合併会社ネスレマッキントッシュ株式会社を設立(現在は契約解消)
	10	株式会社ダロワイヨジャポン設立
1990年	6	富士裾野工場(静岡県裾野市)完成
	-	アンパンマン商品発売
1992年	-	ネクター食品ヒット大賞「ロングセラー賞」受賞(日本食糧新聞社主催)
1994年	6	「ペコちゃんのほっぺ」発売
	11	九州工場(佐賀県神埼郡吉野ヶ里町)完成(現吉野ヶ里工場)
1997年	4	不二家ウェブサイト開設
1998年	5	不二家キャラクター人形の「ペコちゃん」「ポコちゃん」が立体商標第一号として特許庁より認められる
2000年	2	「環境宣言」の制定 /ISO14001 認証取得の取り組み開始
	5	容器包装リサイクル法に対処
	9	ネスレマッキントッシュ株式会社の株式売却
	11	埼玉工場 全ボイラーを小型貫流ボイラーに転換
	12	富士裾野工場 廃棄物焼却炉廃止
2001年	3	カフェテリアプラン制度導入
	4	富士裾野工場 ISO14001 認証取得
	8	埼玉工場 全小型貫流ボイラーを都市ガス化
2002年	4	平塚工場、秦野工場 ISO14001 認証取得
	10	埼玉工場 廃棄物焼却炉廃止
	11	「不二家 行動規範と行動指針」の制定
	12	野木工場 廃棄物焼却炉廃止
2003年	3	平塚工場 全小型貫流ボイラーの都市ガス化
	4	野木工場 ISO14001 認証取得
	4	不二家ファミリー文化研究所設立(以下ファミ文研という)
	6	大阪、名古屋 各証券取引所への上場廃止
	7	コンプライアンス委員会設置・コンプライアンス推進規程制定
	7	環境報告書を初めて発行
	8	ファミ文研 ペコちゃんの森トラスト活動開始
	10	埼玉工場 ISO14001 構築・運用開始
2004年	2	不二家(杭州)食品有限公司を中国現地法人として設立
	6	秦野、平塚、富士裾野各工場を統合し湘南工場発足
	10	埼玉工場 ISO14001 認証取得
2005年	7	個人情報保護基本規程制定
	7	ISO9001 認証取得の取り組み開始
	12	秦野工場 全小型貫流ボイラーの都市ガス化



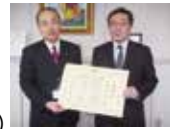
不二家のあゆみ

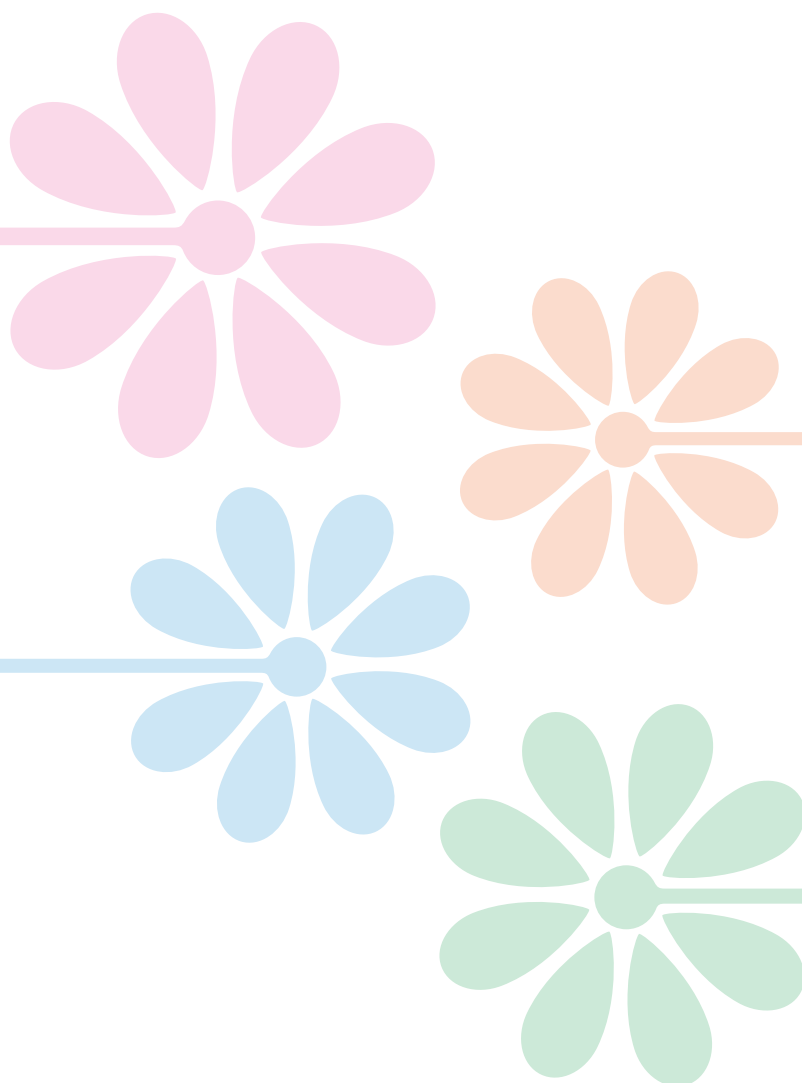
年	月	主な出来事
2006年	1	「品質方針」の制定
	3	泉佐野工場 廃棄物焼却炉廃止
	3	ファミ文研 「めざせ! 食育マイスター」イベント協賛開始
	4	定年退職者再雇用制度開始
	6	ISO9001 認証取得 (菓子事業本部(営業部、マーケティングG、SCMG、事業管理G、研究開発G、湘南工場)、品質保証部、調達部)
	10	秦野工場 汚水処理施設の汚泥減容化装置を稼働開始
	10	泉佐野工場 ISO14001:2004 認証取得
2007年	10	湘南工場を菓子3工場(秦野工場、平塚工場、富士裾野工場)に組織分離
	1	「『外部から不二家を変える』改革委員会」発足
	1	「信頼回復対策会議」発足
	1	富士裾野工場 ボイラー・オープン設備を都市ガス化 (環境省:自主参加型国内排出量取引制度に菓子業界として初の参加)
	2	AIB フードセーフティの取組開始
	2	山崎製パン株式会社と食品安全管理体制整備の支援に関する覚書を締結
	2	秦野工場・平塚工場・富士裾野工場 AIB 監査 一定の評価を得る
	3	山崎製パン株式会社と業務資本提携を締結
	3	埼玉工場・泉佐野工場・九州工場・野木工場 AIB 監査 一定の評価を得る
	4	山崎製パン株式会社に対する第三者割当増資を実施
	4	埼玉工場 ISO14001:2004 一時停止
	5	「外部から不二家の発展を見守る会」発足
	5	ISO9001 認証一時保留/ISO9001 認証一時停止
6	CSR 推進部・食品安全衛生管理本部設置/内部統制システム構築着手	
7	フード連合様を通じ菓子製品在庫の無償提供を実施	
7	泉佐野工場 ISO14001:2004 一時停止	
7	埼玉工場 ISO14001:2004 一時停止解除(認証再開)	
9	泉佐野工場 ISO14001:2004 一時停止解除(認証再開)	
9	ISO9001 認証一時停止解除	
12	「企業理念」「行動規範」改訂	
2008年	1	ISO9001 認証登録維持・継続 (菓子事業本部、食品安全衛生管理本部、秦野工場、平塚工場、富士裾野工場、施設部、購買部) [広域営業部、営業支店、食品品質検査担当、食品品質管理担当(工場駐在)、品質管理担当(洋菓子工場駐在)は除く]
	1	「不二家食品安全の日」制定・第1回「不二家食品安全の日」式典
	4	内部統制システム運用開始
	6	本社部門移転に伴い、本店所在地変更
	6	富士裾野工場 CO ₂ 排出枠(2007年度分) 300tを償却 (環境省:自主参加型国内排出量取引制度)
	10	食に関するオピニオンリーダーによる工場見学(秦野工場) 実施
	11	山崎製パンと新たな業務資本提携を締結(山崎製パンの子会社となる)
2009年	1	第2回「不二家食品安全の日」式典
	2	埼玉工場で「不二家生産方式」の確立に向けた「本物の5S」活動キックオフ
	2	不二家洋菓子店で「生ミルクィー」発売
	3	野木工場で「不二家生産方式」の確立に向けた「本物の5S」活動キックオフ
	5	富士裾野工場が食品リサイクル率100%を達成
	6	平塚工場操業50周年記念式典
	8	平塚工場で「不二家生産方式」の確立に向けた「本物の5S」活動キックオフ
	8	カントリーマアムブランドに新コンセプトの「カントリーマアムクリスピー」登場
	8	銀座ペコちゃんミュージアム開催(期間限定:8/24~9/6)
	9	障がい者雇用優良事業所表彰を受ける
10	不二家洋菓子店で「ミルクィークリームロール」を発売	



不二家のあゆみ

年	月	主な出来事
2010年	1	第3回「不二家食品安全の日」式典
	1	平塚工場が食品リサイクル率100%を達成
	2	富士裾野工場が「食品産業CO ₂ 削減大賞」(主催:㈱日本総合研究所 後援:農林水産省) 優良賞を受賞
	4	「本物の5S活動発表大会」開催
	4	埼玉工場 埼玉県食品衛生自主管理優良施設として確認票交付
		創業100周年記念事業
	8	「ハートフルコンサート2010」に協賛(東京フィルハーモニー交響楽団主催) 「ペコちゃんの歌」発表(作曲・編曲:久石譲、作詞:久石麻衣)
	8	「ペコちゃんスマイルコンテスト」最終審査&授賞式
	8	「ペコちゃんに“モードな服”をプレゼント」コンテスト (モード学園×新宿高島屋×不二家合同企画)
	9~10	「ペコちゃんが行く!不二家キャラバン隊」(児童施設77ヶ所訪問)
	11	「おしゃべり店頭ペコちゃん人形」登場
11	「銀座ペコちゃんミュージアム」開催(期間限定:11/1~11/21)	
10	「第2回本物の5S活動発表大会」開催	
11	秦野工場が「神奈川県地域共生型工場等」として神奈川県より表彰	
2011年	1	第4回「不二家食品安全の日」式典
	3	事業報告書「株主のみなさまへ」にFSC認証紙及び植物油インキを採用
	4~5	ペコちゃん、キャラバンカーで被災地訪問(福島県いわき市、岩手県、宮城県)
	7	夏場の節電対策実施
	8	「銀座ペコちゃんミュージアム」開催(期間限定8/19~9/4)
	12	「銀座ペコちゃん・Winter shop」開催(期間限定12/10~12/25)
2012年	1	第5回「不二家食品安全の日」式典
	1	東日本大震災時の食糧支援に対し、農林水産省より表彰
	3	第1回「不二家防災の日」式典
	4	東京お菓子ランド「PEKOPOKO SWEET LAND」開店(期間限定4/14~9/2)
	6	埼玉工場で火災発生
	8	銀座ペコちゃん サマーフェスタ開催(8/24~9/2)
11	「第3回本物の5S活動発表大会」開催	
2013年	1	第6回「不二家食品安全の日」式典
	1	「スマイル運動」開始
	3	8期ぶりに復配
	6	第2回「不二家防災の日」式典
	8	銀座ペコちゃん サマーフェスタ開催(8/23~9/1)
2014年	1	第7回「不二家食品安全の日」式典
	2	『「スマイル運動」推進のための5S活動報告会』開催
	4	株式会社スイートガーデンが不二家の完全子会社化





株式会社 不二家

〒112-0012 東京都文京区大塚 2-15-6
ウェブサイト <http://www.fujiya-peko.co.jp/>



© FUJIYA CO., LTD.

■お問い合わせについて

お便りの場合：〒112-0012 東京都文京区大塚2-15-6 株式会社不二家 CSR推進部
Eメールの場合：不二家ウェブサイト内のお問い合わせ専用フォーム内をご利用ください。

本報告書記載記事の
無断転載・複製を禁じます。